

敬和学園大学と地域社会を結ぶコミュニケーション誌

KEIWA

COLLEGE REPORT

第20号

〈OCT 1999〉

発行/敬和学園大学広報委員会



CLOSE UP **健康づくり** 久島公夫

夏期短期留学レポート
海外留学レポート／教職課程報告

科目等履修生レポート／クラブ紹介
教育実習レポート／ゼミ紹介
オープンキャンパス報告／2000年度入学試験概要
佐々木駅の生い立ち／学園祭のご案内
世界探訪講座報告



1991年の開学以来毎年行われる福祉体験学習週間は、今年は9月20日から24日まで、主に1年次生を対象に行われました。写真は、最終日のふれあいバラエティでの本学プラスバンド部の演奏風景です。この他にも、少林寺拳法部の演舞や軽音楽部、手話サークル、学外からは腹話術、音楽療法の専門家による楽器を使った遊び、ソプラノ独唱、それに茶道部によるお茶会といった出し物があり、ある福祉施設からは、この催し物を年間の三大多行事のひとつとして、位置づけているとのお言葉をいただきました。



もくじ

健康づくり	久島公夫	1	オープンキャンパス報告	10
夏期短期留学レポート		4	2000年度入学試験概要	11
海外留学レポート		6	「佐々木駅の生い立ち」	
<科目等履修生制度>			— 地域の歴史を尋ねて —	
科目等履修生レポート			片桐邦郎	12
	田野好子	7	学園祭のご案内	13
クラブ紹介	井上英樹	7	世界探訪講座報告	13
教職課程報告		8	寄付者ご芳名	13
教育実習レポート		8	学事予告	13
ゼミ紹介	柴沼晶子	9		

健康づくり

教授 久島 公夫



生命保険に入る

最近、我が家では私の生命保険の見直しを行った。それまで入っていた保険を解約し、掛け金を半額にして新しい保険に入り直したのである。理由はいくつかあった。家の改修費用が必要、私の給料や小遣いと比べて掛け金が巨額、保険会社が倒産しても保険金は戻らないだろう、そして、もうあなたの死亡保険金もそんなにいらないうよ、ということと結論が出て、見直しに着手したのが昨年の十二月であった。私はこれまでの経験から、同じ会社の同じ種類の保険だったので新しい型の保険に入ることなどなんの問題もなくすんなりいくものだと思っていたが、最近よくワイドショー

を賑わしている保険金詐欺疑惑事件のとはつちりのせいでもないだろうが、保険に入るのみなかなか大変だということを実感した。現保険の解約、払い戻し、新規加入ということまで話が進み、健康診査票が必要になった。私は近いうちに成人病検診を受ける予定にしていたので、その結果を提出しようと思っていたが、早いほうがいいし、簡単に済むということで、二月上旬に指定医の健康診査を受けることになった。検査の前日、珍しく昼頃から体調が悪くなり夕食も食わずに寝込んでしまった。翌日は回復していたので、先延ばしするのもしやだったし、予定通り検査を受けた。

糖尿病か？

簡単な検査だったが、尿検査で糖が少し出ているとのことだった。指定医の先生からも特に保険加入についての指示は無かったし、前日から寝ていて体を動かさなかったせいだろうと思っただけに気がしなかった。他には異常がなかったのでもそのまま健康診査書を添えて申し込んだ。ところが、一ヶ月経っても返事が無い。様子を聞いてみると、東京の本部に送って審査してもら

っているというだけで要領を得ない。その後二週間以上経っても返事がないので、遅れている理由があったら知らせて欲しいと催促した。一週間ほどしてようやく回答があった。どうやら私の糖尿病の進行の程度を判定して、将来私が糖尿病で死亡したり、入院したりしたときの保険金支払いの減額の程度を検討しているらしい。私は一回の尿検査だけでいつの間にか糖尿病になってしまった。あまりいい気はしない。前任の大学で春の定期健康診断の日に、糖尿病の精密検査を受けるようにといわれて、青い顔をして相談に来た若い先生を思い出す。前日の様子を聞いてみると、宮島に行って卒研ゼミの学生とゼミ恒例の紅葉饅頭大会をやって、二十何個か食べて優勝したという。饅頭のせいに違いないからと尿の再検査を勧めたら、一週間ほどして彼は、ニコニコ顔で異常なしを伝えるにきた。今回の私の場合も、自分にも非があるが、早く理由を知らせてもらえば再検査をするとか、さっさと他の保険に乗り換えるとか早く処理できたのに、といささか腹も立つ。こんなやりとりをしている間に、半日ドックで成人病検診を受けた。その時は体調も

普通だったので、尿糖も出ず血糖値も正常で全体としては異常なしの文字が打つてあった。そこで、最新の検査結果だからこの成人病検診の結果で審査し直して欲しいと申し入れた。この件は了解されたが、実は成人病検診の結果も、取りようによっては万全とは言えなかった。

高脂血症か？

血清脂質の項目で、総コレステロールが正常値の限度をわずかに越えていて、高脂血症の疑いありとプリントしてあったのである。しかし、総コレステロールはおおむね善玉といわれるHDLコレステロールと悪玉といわれるLDLコレステロールを合わせた数値といってもよいので、HDLとLDLのバランスの方が問題となるはずである。私の場合は、悪玉の方が低く、善玉の方が非常に高かったのだが、善玉が高かったせいで総コレステロール値が高くなってしまった。しかし、LDLをHDLで除した動脈硬化指数は標準値よりはるかに低く、自分では理想的な血清脂質の状態だと大満足であった。だが、総コレステロールだけを見ればわずかでも高いことは確かであり、高脂血症という恐ろしい文字も打たれているので、保険の審査ではまた死亡保険金の減額の相談がされるかもしれない。今度は私は先手を打って、総コレステロール値が高くなった事情を繰り返し保険会社の人に説明した。その効果があったのか、ようやく四月に入って新規の保険に入るこ

が分からないが、一旦出てきた数値については厳しくチェックするようであった。この一件で私は、歳を取っていくといろいろな検査結果を正常値といわれるものの範囲内に留めておくのは難しいこと、自分ですでにそういう年齢に入っていたので、段々生活上の問題も多くなってくるだろうということを実感することができた。健康診断や医学検査の数値で判定される健康を保つことは難しいのである。

健康とは？

それでは健康というのはそもそも何なのだろうか。具体的にどのような内容を意味しているのだろうか。健康の定義で良く知られているのは、「健康とは、単に病気がないまたは虚弱でないというものではなく、身体的にも、精神的にも、社会的にも完全に良好な状態である」という一九四六年の世界保健機構設立時の憲章の中に掲げられたものである。この定義は、健康を身体のみならず、精神的さらには社会的側面までも考慮したものとして画期的なものであった。そして、完全な状態という目標にむけて積極的に努力することが、健康的なのである、と解釈されている。しかし、近年、医療技術の高度化、高齢社会の進行、生活様式の変化、環境汚染の進行などにより、虚弱に生まれてきたり、気づかない間に体機能に異常が起こったり、慢性的な病気に罹っていたりというように、そもそも完全な状態を望むことが不可能な状況が生じてきた。こうなってくると、健康を単なる疾病の対立概念ではなく、豊かな生活や充実した人生との関連から捉えること

が現実的である。ここから、楽しい、QOL（生活、生きていくことの質）の高い日常生活を送ることができるとかどうかということが、健康か否かを意味するということ健康観が導かれる。健康をこのように考えると、身体的には少々異常や障害があったとしても、健康な生活を送ることは十分に可能なのである。

健康づくりとは？

このような健康な生活をどうしたら高齢まで維持することができるかということだが、健康づくりといえる。ところが、実際の健康づくりの方策ということになると、どうしても疾病予防の方に目が向きがちになる。もちろん疾病予防は大切であるが、疾病予防の見地に立つと健康づくり実践のための選択肢は狭められるし、また、無味乾燥な面白味のない内容になってしまう。健康づくりは毎日の生活の中で継続していかないと効果がないので、結局は生活習慣を変えようということでもある。疾病予防にばかりとらわれると、将来病気になるかもしれないという理由のもとに、その人の好んでいる生活パターンに禁止や制限を加え続けるだけの結果になりやすい。このように、画一的な面白味のないことを習慣づけるということは、QOLの高い、充実した日常生活を送るといって健康観とは相容れないということにもなる。私達は、ある事柄に対して強い欲求が湧き起こった時、その心理的な不均衡を解消するために行動を起こし、不均衡が解消されて充足されたときに、快い満足感、すなわち充実感を味わうことができる。この経験をくり返すことに

よって、いろいろな行動が習慣化されるのである。したがって、そうしたいという欲求が湧いてこないような事柄を日々の生活の中に取り入れることは、よほど意志の強い人でないと難しい。

美味しいものを食べたいというのは、人間の本能が発する健全な欲求であり、生活の質を向上させることである。ところが、困ったことに、美味しい食べ物には脂肪を含むものが多い。マグロのトロしかり、霜降りの牛肉しかり、豚肉しかりである。脂肪摂取を抑えようとしてこうした美味しい食べ物を制限すると、食に關するQOLは低下する。したがって、血清脂質値の高い人がいた場合、画的に食べることを禁止するのではなく、その人にとってはどうなのかを、他の検査値や生活習慣を検討した上で個別に判断すべきである。健康づくりに当たって最優先すべきは、一つ一つの疾病の予防という観点ではなく、本人の総合的なQOLの向上であろう。検査値が異常だからといって、異常な者が皆同じように難行苦行を続ける必要もなからう。

健康づくりと運動

高齢までQOLの高い生活を送るためには、生活の予備能力としての身体活動能力や運動調節能力を維持することが大切である。周知のように、身体機能の維持、強化にはどうしても身体を動かすことが必要である。ところが、私達の身体が運動を必要としているにもかかわらず、現在の生活は運動を必要としなくなってきた。そこで私達は、身体機能を維持するために、毎日の生活の中で意識して、余分な運動をする必

要が生じてきた。健康づくりにとって大切な運動だが、生活時間の中で自分の意志で運動しようとするとなかなか難しい。運動すると苦しい疲れれる。身の回りには他に興味をそそるものも、誘惑をかりたてる遊びも沢山ある。それでも、毎日の生活の中で継続して運動の欲求が起るかどうかは、その欲求が充足されたときに快感や満足感が得られたかどうかという経験にかかっている。つまり、日常生活の中に運動を取り入れるためには、運動することが楽しく充実したひとときであると感ずることが必要である。楽しさの種類は何でも良いと思う。ジョギングを例にとってみる。ジョギング中に起る「ランナーズ・ハイ」といわれる高揚した快い気分を楽しいと感じることもよし、仲間と一緒に走りながら人間関係を深めることが楽しいと感じることもよし、自分で設定した毎週の目標距離を達成することに充実感や楽しさを感じるともよし、走った後の爽快感を楽しいと感じることもよしである。また、運動の種類も何でも良いと思う。社会人になった人々には、速足歩き、ジョギングなどの軽い持久的運動が奨励されている。一日にジョギングで約三十分、速足で約一時間、消費カロリーで約二〇〇キロカロリーが目安となる。面白さという点では難があるが、特定の場所や仲間も必要なく、安全性も高く、持久力の向上や生活習慣病の予防にも効果がある。球技スポーツは、生活習慣病の予防には効果が少なく、傷害の危険性が高いということであまり奨励されない。しかし、一つ一つのプレイやゲームが楽しく、技術を追うのも楽しく、人間関係もできやすい

のはいろいろなスポーツ種目である。仲間と場所が必要であるが、テニス、バドミントン、卓球、ゴルフ、バレーボールなどかなり高齢まで楽しめるスポーツは沢山ある。運動時間さえ多くすれば持久的運動と同じ効果が期待できる。その上、生活の予備体力や運動の調節能力を高めるという点では極めて効果的である。学生時代からいくつかのスポーツに慣れ親しんでおくと、運動する時の選択肢が増えるので必ず生涯役立つはずである。ともかく、運動することにあまり理屈をつけないで、やりたいと思う好みの運動をできる限り高齢まで続けることが健康づくりの運動といえる。ただ、自分の健康づくりなので、疾病予防も含め自己管理、自己責任が前提となることは忘れてはならない。体調の悪いときや、悪天候のときは無理をしないことも大切である。私自身は、球技スポーツを中心に生活の中で運動を楽しんできたが、最近では一人でジョギングしたり、ランニングベルトの上で走ったりすることも面白くなってきて、余暇運動の選択肢が広がった。今、私は健康づくりはQOLの高い生活づくり、ということを念頭に置いて日常生活を送ろうと心がけている。また、学生にもこのような観点から授業を行っている。

夏期短期留学レポート

短期留学を終えて

英語英米文学科二年 渡辺 素江

私はこの夏休み、アメリカのカリフォルニア州に五週間短期留学しました。アメリカに留学することは高校生の頃からの夢でした。ロサンゼルス空港から私の通うサンパナデーノ校に到着すると、まず日本で感じるのではないすがすがしい暑さに驚きました。それからすぐにホストファミリーのご夫婦と会い、初めてアメリカでの週末を過ごしました。私のホストファミリーは大学から車で約三十分の山の中に住んでいて、そこは湖や自然に囲まれたとてもきれいな場所でした。また、大学にいる時ほど暑さは感じられませんでした。三人の孫が夏休みで訪れていたため、初めの五日間は六人で過ごしました。

大学はとても広く、自然に囲まれたとてもきれいな所で、お昼はいつも外へ出て、木の下で食べました。少し暑かったけれど、とても良い気持ちでした。授業は、月曜日から木曜日までの週四日間で、午前中はリーダーディング、ライターディング、グラマー、午後はカンパシーションの授業があり、時々、台湾からの留学生と一緒に授業を受けました。また、ダンスをしたり、クリスマスツリーを作ったりしました。そして毎週金曜

日には、デイズニーランド、シーワールド、ユニバーサルスタジオ、グラランドキャニオンへの小旅行がありました。中でも日本では見ることのできないグラランドキャニオンの美しさ、大きさが一番印象に残っています。

週末になるとホストファミリーが教会、湖、ショッピングモール、オペラなど、たくさんのお出かけ先を連れていってくれました。また、ラズベリーをつみに行ってジャムを作ったり、涼しい日には外で食事をしたり、たくさんのお出かけ先を連れていってくれました。

私は初めの数日間は家族同士の会話や、先生の説明がよく理解できず、少し不安でした。けれど生活していくうちにいつの間にか英語を聞きとれるようになっていきました。この五週間で英語を学ぶ以外にもたくさんの新しい経験をする事ができて、本当に良かったと思っています。日本に帰ってきてからも時々ホストファミリーとEメールでやりとりしています。この短期留学で残りの大学生活でもっと英語力を上げ、いつかまたアメリカへ行きたいという新たな目標ができました。これからはその目標に向けてがんばりたいと思います。



私の大切な友達のみなさん、お元気ですか？

英語英米文学科三年 古澤 尚子

飛行機は落ちるものと考えている私が、今年の夏初めて飛行機に乗ってイギリスまで行ってきました。片道約十二時間の飛行機の中で私が考えていたことは、行きと帰りではまったく正反対の事でした。初めての外国行きが楽しみではありましたが出発の数日前から不安が大きくなっていった私は、行きの飛行機の中では早く日本に帰りたいと思っていました。

私が留学したのはイギリスのボーンマスという都市にあるアングロ・コンチネンタル英語学校でした。そこには本当に世界中の人達が英語を学ぶために来ていました。ボーンマスは海に面した都市で、少し歩くとリスのいる大きな公園やビーチに出られるきれいな所でした。そこで私が特に仲良くなったのは韓国の人達でした。彼らやアラブの人達の留学期間はとても長く、中には数人でフラットを借りて住んでいる人達もいました。私はよくその韓国の人達が住んでいるフラットへ遊びに行きました。彼らは私に韓国料理をごちそうしてくれました。彼らは四人でフラットに住んでいましたが、みんな私よりも年上で、英語も上手でした。

チンは世界中にたくさんいるガールフレンドをつくるのが目標だということでもない人のように思いましたが、実は大学まで進学させてくれた両親への恩返しのため一生

懸命に勉強しているがんばり屋さんでした。リーは年齢よりも老けて見られるのが悩みだと言っていました。彼は一度就職したのですが、自分の専攻だった英語をもっと学びたいと思い留学したそうです。彼は日本語も話せる私のお兄ちゃんでした。私が彼らから学んだことは勉強する姿勢でした。まだ足りない、もっと勉強したいという気持ちを抱えているものでした。目標を持って留学し勉強している彼らを見て私は刺激を受け、将来の夢を思い描くことができるようになりました。

帰りの飛行機の中で私はイギリスで過ごしたすばらしい日々を思い返していました。そして、日本に帰りたくない、もっとみんなと夢を見ていたいと思っていたのです。今回の留学で私は大切な友達と大切な夢を見ることができるようになりました。そして新しい目標を見つけることができました。ありがとうございます。



ワシントン外国語アカデミー に短期留学して

英語英米文学科三年 長島 真優子

シアトルに到着したのはあいにくの雨の日で、その気温の低さに衝撃を受けました。留学中も例年ならば日本よりも暑い日が続かずでしたが、私たちが過ごしたのはほとんど汗をかかない涼しい夏でした。朝や夜は冷え込むときもあり、私が抱いていたシアトルのイメージとの違いにまどつたりもしました。

留学先のワシントン外国語アカデミーは、各クラス十五人を超えない少人数制で、授業は教師と生徒との質疑応答を中心に進められました。生徒が口を開かずには受身でいることはなく、わからない点はどんな教師に質問することが要求されます。私のクラスでは、三日に一回は必ずといっていいほどテストがあったため、疑問点を放っておくと点数がひどいものとなって返ってくるのです。しかしながら、質問も当然英語で聞かなければならぬため、はじめのうちは質問文を考えているうちに授業がもう先に進んでいたケースも少なくありませんでした。

授業を含め、海外生活の中で自分の英語力の低さを痛感することが多々ありました。ナチュラルスピードの英語は想像以上に聞き取りにくく、何を話しているのかも予測することしかできないのです。ホームステイ先の会話においても、自分の感情をなんと表現していいか言葉が見つから

ずに困ったときもありました。留学もホームステイも何もかも初めての中で、ヘルプ・ユアセルフ文化が一番の戸惑いでした。食事は自分の好きなように取り分けたり、シャワーや洗濯機など必要なものは断りなく使うことができるのですが、他人の家では何もかも了解を得てから使う習慣が身につけていた私にとって、この文化になじむことが大変でした。

留学中は思ったよりも宿題が多く、英語づけの毎日で大変でしたが、自分の能力を認識し、新しい目標を持つことができました。それに加え、アメリカの文化や生活に触れるなど、日本にいてはできない貴重な時間を過ごせたと思います。



海外留学

レポート

中国での得がたい経験

国際文化学科三年 相馬 さなえ

私はこの夏休み、北京師範大学に一ヵ月短期留学しました。

毎日の会話とヒアリングの授業は全て中国語で行われました。先生の話聞き取るのが大変で、気が抜けませんでした。先生は学生たちが「不明白(分からない)」と言うと、表現を変えたり、身振り手振りを交えたりと、私たちが理解できるまで熱心に教えてくれました。時には、一対一で教わることもありました。先生は「あなたの中国語学習の助けになれば嬉しい」とおっしゃって、私の発音を時間をかけて何度も何度も直してくれました。こんなに素晴らしいチャンスを得て勉強ができるとは思ってもありませんでした。

暇がある日は仲間と一緒に街に出て、中国の人々のありのままの生活に触れました。また、自分たちだけで汽車に乗って泰山に行き、何百段もの階段を半日かけて登り、心地よい達成感に満たされたのはかけがえない思い出となりました。万里の長城では古人の労力と知恵の素晴らしさを肌で感じました。内蒙古では、広々とした草原で生まれて初めて乗馬と包の生活を体験しました。

一ヵ月という短い期間でしたが、中国語

と中国文化をより深く学びたいという思いが一層つまった留学でした。同じ目標を持った仲間と刺激しあい、助け合いながら勉強できたのは大きな喜びです。同時に、初めての異国での様々な発見と体験は、時には楽しく、時には辛く厳しいものでしたが、私にとって大きなプラスとなりました。

最後にこの留学に際して、いろいろとアドバイスをくださった松本先生と、心配して何度もホテルに電話をくださった房先生、本当にありがとうございました。



ボンジュール☆フランス

国際文化学科四年 齊藤 貴久子

フランス語の佐藤先生から紹介を受け、フランス中部、見渡す限り草原の田舎町で三週間中年のご夫婦と過ごしてきました。

午前中三時間は奥さんから文法中心の授

業を受け、旦那さんが準備した昼食を三人で食べました。昼食は一日の食事の中で最も豪華で、ワインまで登場する毎日でした。午後は奥さんが仕事へ行くので、旦那さんと二人で庭の手入れ(校庭ほどの広さ)や古城めぐりをして過ごしました。三人で夕食をとる際、私には一日の出来事を報告するという課題があり、一日一日とこの報告が長く内容のあるものに変化していきま

た。

ご夫婦は自分たちが行く所はどこへでも私を連れて行き、互いに頬を合わせ口で音を出すというフランス式挨拶を経験させ、社交性と積極性の気配りを教えてくれました。大学で得た知識と二人に支えられ、口を突いて出てくるフランス語に喜びをおぼえる日々でした。

親切で熱心なフランス人ご夫婦、応援してくださる大学の先生方と渡仏の機会を与えてくれた両親に、心から感謝し勉強を続けていきます。



科目等履修生制度

科目等履修生制度は、社会人や主婦の方が、本学が開講する幅広い授業科目を学んでいただけるように設けられた制度です。興味のある学びたい科目を選択し、受講することができます。

科目等履修生が受講科目の所定の単位を履修し、その試験に合格した場合には所定の単位が与えられます。また、成績証明書等を受けとることができます。なお、学位授与機構の規定に従い、こうした履修単位を積み上げるにより、大学卒業の資格を取得することができます。

科目等履修生レポート

生涯学習ですもの、 一歩ずつ

田野 好子（哲学、文化人類学）



七十年もの月日、書道に打ち込む高校の恩師。奥深く、ていねいにおもいやりの心を教えてくださる裏千家の

先生。一針一針かわいものを作り出す、おもちゃ図書館ボランティアの仲間たち。百名山に挑戦しようと山を愛し続ける友。日常の疲れた心も癒してくれるからと、ガーデニング好きの友。一瞬の世界をレンズに止めるアマチュア写真家等々。

私の周りには、自分らしい生き方を模索している人たちがいて、心地よく刺激してくれます。

そんな時です。新新バイパスから見えるこの大学で学ぶチャンスがあることを知り、飛び込んだのです。科目の決定までには、迷いだけありました。

まず、哲学と文化人類学の二科目。三十年ぶりのこと、親子ほどの年の差。でも、心配はないようです。

九十分の時間に引き込まれ、頭の中をぐるぐる、ああしたい、こうしたいという意欲にかき立てられることも多くあります。毎日を生きているのだから、自分を見つめる中で楽しむことができたらと願っています。

「哲学」から一つ紹介してみましよう。夏目漱石の『こころ』について新しい発見に導かれたときのことです。高校時代に文学作品を一通り読みひたり、この四部作にも、難解ながらのめり込んだものでした。それ以来、何か消化不良を起こしたまま現在に至っているような気持ちです。

ここでまったく別な見方から、つまり哲学の視点から、作品について語られたのかという安堵感。素直に、学ぶことのすばらしさを実感することができたのです。

このように大学に通い始めてから、前向きに一歩ずつ進んでいこうとする自分に気づいています。

クラブ紹介

バドミントン部

主将 井上 英樹

バドミントン部は、月、水、土の週三回、大学の体育館で練習しています。部員数は男子部員六名、女子部員十名の計十六名です。バドミントン部の目標は、主なものとして北信越大会での上位入賞があります。そのため、大学近隣で行われる諸大会へも数多く参加し、技術の向上に励んでいます。部活動の内容としては、基礎、ゲームを中心としたメニューを行っており、男子、女子が合同で練習をしています。学校での部活動以外では、夏には合宿があり、社会人チームとの合同練習なども行っています。さて、北信越大会の上位入賞を目標とするそんな敬和大バド部ではありますが、実際どの程度の成績を残しているのかというと、過去は初戦突破もできない弱小部でした。が、近年、先輩たちの努力の甲斐もあり、初戦突破は当り前、北信越大会において優秀な成績を残すようになり、過去の弱小イメージを変えつつあるところですよ。設備も部員数も桁違いの北信越の強豪大学を相手に勝てるようになったのは、部員全員に努力に他なりません。

バドミントンは個人競技ですが、部員全員が目標に向かい、一丸となって努力しています。努力あり、笑顔あり、時には涙ありのなんともいえない楽しい部活、一言で表すならこんな部だと思えます。

教職課程報告

今年の教育実習も後期に予定されている三名を残して十五名が無事終了しました。前期の教育実習反省会には、はじめて三年生も出席しました。三年生は先輩の終わったばかりの教育実習体験談や反省を聞き、質疑応答によって、一年先のことを考えていた実習を身近なものとしてとらえたと思います。

昨年から教育実習の体験での学びや感動を、教職課程の勉強に励んでいる後輩や全学の皆さんに知っていただくとうと学内に掲示することに致しました。ご覧くださった方も多いことでしょう。今年さらさらに学園祭で教職課程の展示を計画しております。その内容についてはこの展示の実行委員をはじめ履修者全員が熱い思いをこめて計画中です。どうぞご期待ください。

一九九四年度の一期生の教育実習から今年で六年目になります。毎年の経験をふまえ、教職課程委員会では教育実習の事前指導の内容や教職課程そのものあり方を反省し、できるだけの改善をしてきてはいますが、いざ実習校に学生の皆さんを送り出すときには、実習生以上の緊張と心配で、まさに薄氷を踏む思いを致します。それだけに一回り大きくなり、自信に満ちて大学に帰ってきた学生を迎えるときの喜びは何ものにも替え難いものがあります。恐らく実習校を訪問されているゼミ担当の先生方も同じ思いをされていることでしょう。

実習校の先生方から送られてくる評価は非常に高く、英語の専門的知識や授業の技

術などは今後の研鑽を期待されているものの、教育実習への真摯な取り組みと研究熱心な態度にほとんどの学校からお褒めの言葉をいただきます。これは本学の教職課程では英語科教科教育法などで早くから教科書の教材研究や学習指導案作成に取り組み、大学の英語初級レベルでチーム・ティーチングの経験をするなど、学生は英語の実践的な指導法を少人数のクラスで勉強する機会に恵まれているからだと思います。また外国語改革から五年過ぎ、模擬授業をしていて、英語の発音やリーディングが格段によくなくなったことに気づきます。

これまでに卒業後の受験者も含めて毎年県の教員採用検査に二、三人の合格者を出してきましたが、今年の七月に行われた一次選考では四年生の五名がパスしました。卒業生も挑戦していますので、八月に行われた二次選考の結果を期待しています。

学園祭の展示には各地の中学校、高等学校で活躍中の先輩からメッセージをいただくことになっていきます。学校現場の難しさが問題になっている昨今ですが、どんな便りが寄せられるでしょうか。



国際理解教育のなかで小学校でも英語の学習がとりあげられようとしている現在、教職への道にも明るいきざしが見えてくるようです。

教育実習レポート

I was a teacher.

英語英米文学科四年 坂本 理奈

数年ぶりに母校へやってきたというのに、気が重い。つい昨日までは学生、しかし今日からはその立場も変わります。さらに、最近その深刻さを増しつつある様々な問題に、もしかしたら自分も関わることになるのかという前々から抱いていた不安が、職員室までの足どりを一層重くしました。すると、突然背後から「坂本せんせい、コンニチワア!!」の声。「ゲツ生徒だ」と思ったのも束の間、すれ違う生徒が次々と声をかけてきます。しかも自己紹介もまだなのに、「坂本先生」と呼んでいる!安心と感激で、私も気持ち悪い位の笑顔で挨拶を返してしまいました。このようにして、生徒への恐怖感や戸惑いは初日にして生徒たちが奪い去ってしまったのです。

しかし、授業に対する恐怖感だけは、終始つきまといました。正面から生徒と対峙するというのが基本的なことでも困難を生じ、計画通りに授業に臨んでも、こちらの一方通行になってしまうなど、ねらいが十分に達成されないことの繰り返しでした。しかし、それらの失敗と反省は担当教員の熱心なご指導のおかげで、確実に次の進歩へとつながりました。徐々に手応えも感じられるようになりまし。そして「わかった!」「英語が楽しくなってきたゾ」などといった生徒の何げない一言が聞こえた時には本当に嬉

しくて、教科書を落してしまった時もあったほどです。

教師とは生徒の将来に関わる重要な仕事です。私もわずかですが、彼らの将来に関わったことになりました。決して自負するわけではありませんが、彼らに何かを残していこうと一生懸命であったことは確かです。生徒たちと共に笑い、泣きながら学んだ二週間。私の中では本当に貴重な時間が流れていました。

実習ノートを開くと今でも胸が熱くなります。ご指導いただいた大学の先生方、実習先の先生方、そして協力してくれた生徒たちに、深く感謝し、心からお礼を申し上げます。

教育実習で学んだもの

英語英米文学科四年

百崎 ちひろ

六月一日から二週間、高志高校で教育実習をさせていただきました。

教育実習中、初めは一日一日が長く感じられました。授業をしていくうちに逆に時間が足りなくなっていく、あつという間に終わってしまったように思います。担当教諭の先生をはじめ、多くの先生方から様々な指導を受け、たくさんの方を学ぶことができました。

実際授業をしてみても、生徒に理解させることの難しさを実感しました。授業の後、先生から授業の進め方や、注意する点など指導をいただきました。生徒一人一人をよく見て、理解しているか確認しながら授業

をすることが大切だと言われました。また、生徒たちの協力的な姿勢には何度も助けられました。板書の誤字を指摘してくれたり、分からないところを積極的に質問してくれたので、一呼吸置きながら授業をすることができました。

放課後、体育祭の応援練習があったので私も参加しました。授業以外で生徒たちと接する時間がほとんどなかったので、生徒を知るいい機会になりました。話してみると、どの生徒も誠実で、優しい心をもって

いると思えました。最後の日、校長先生から「教師は常に勉強です。教師になったら誰も指導してくれません。自分で学び、吸収していくことが大切です。そして、生徒から信頼される素晴らしい教師になれるよう頑張ってください。」と言われました。教師という仕事はとても難しい仕事だと改めて思いました。この貴重な経験を生かし、これからも努力していきたいと思えます。



ゼミ紹介

「英文学の主體的な理解をめざして」

英語英米文学科教授

柴沼 晶子

前期は二十一世紀に生きる自己像を模索しながら、女性を取り巻く問題を歴史的に扱った基礎的な英文のテキストを読むとともに、各自の問題関心を順次発表して、それを最後にレポートにまとめました。発表のあとの質問によって、発表者の問題意識や内容が明確になり、さらにそのテーマをめぐる話し合いによって、個人の学習を全員で共有することができました。

それらのテーマは、「日本の女性観の変遷」「市川房枝」「男女平等に向けてーシロタ・ゴードンの理想と日本の現実」「日本のウーマン・リブと主婦、一九七〇年代ー主婦が働くということ」「十九〜二十世紀のアメリカの女性の姿と私の理想とする女性観」などです。

後期は英文学史の代表的な女性作家と作品中のヒロインについて勉強します。英文テキストにはギヤスケル夫人の「シャロロット・ブロンテ伝」の一部。夏休みの課題でJ・オースチンの「高慢と偏見」、ブロンテ姉妹の『ジェーン・エア』、『嵐が丘』、V・ウルフの『自分だけの部屋』を翻訳して読み、前期の学習を基礎にして、各自の視点から作品の中の女性像や作家の女性観を検討していきます。時代の社会的背景と階級制度、選挙権拡張運動、女性の職業としてのガヴァネス、女子教育の発達と女性の自立—なども視野に入れていきます。

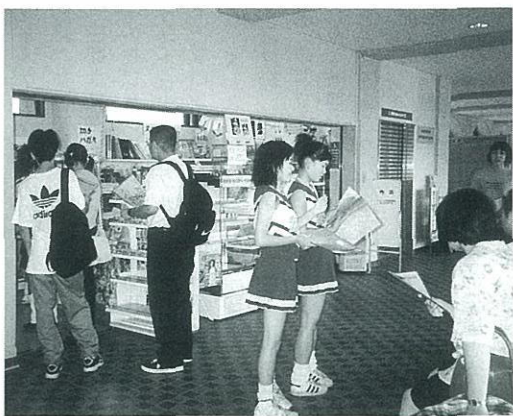
オープンキャンパス報告

大学に興味を抱いてくれる高校生をキャンパスに迎え、教室や図書館、体育館、教授の研究室などに案内し、模擬授業に参加してもらい、在学生のサークル活動を紹介します。それが今、どこの私立大学でも行われているオープン・キャンパスです。今年は五回ものオープン・キャンパスを予定している大学もあると聞きます。敬和学園大学ではオープン・キャンパスを昨年二回行いましたが、今年はもう一回ふやして、七月、八月、九月の三回実施することになりました。もちろんお客様の手体は高校生ですが、少数ながら高校の先生、親御さんの参加もありました。

敬和のオープン・キャンパスのパターンをご紹介します。七月二十四日、八月二十八日、九月二十五日とも、まず十二時三十分を受け付けを開始、待ち構えている在学生の案内で高校生たちは「学内探検ツアー」に出発します。案内には学内の有力サークルである少林寺拳法部、軽音楽部、ブラスバンド、ボランテニア・サークル、手話サークル、チア・リーダー部等の学生があたりますが、やはり目立つのはチア・リーダー部の女子学生たちと、白い練習着の少林寺拳法部の面々。案内者は嬉々として若い訪問者たちを案内していました。十四時になると、訪問者と大学側の関係者一同が新発田館二十一番教室に集まり、

恒例の開会式。学長の挨拶、当日参加の教員の紹介とそれぞれの先生のメッセージ、これからのスケジュールの説明。それから四十五分ずつ二回にわけて体験模擬授業とゼミが行われ、高校生たちはこうした授業やゼミを分散して小人数で味わいました。体育館で行われるサークル紹介の方に参加する生徒もありました。「教員の個別相談コーナー」では、さらに詳しく入試委員の先生から敬和学園大学について聞くことができます。学生生活について相談したい高校生のためには「学生のキャンパス・ライフ紹介コーナー」も設けられています。

本年は「情報処理論2」担当の本間誠治先生が七月と八月に栄光館四階のコンピュータ教室でインターネットの体験模擬授業を指導してください、好評でした。ジェイムズ・ブラウン先生による英語の体験模擬授業（七月、九月）。八月には英語英米文学科の模擬ゼミとして、金山愛子先生のゼミの学生がシェイクスピアの『ハムレット』を日本語で演じる練習をしました。学生たちはちよつと恥ずかしそうで、真に迫る演技とはいえませんが、劇の内容を理解するにはよい方法だといえるでしょう。国際文化学科の神田より子先生のゼミでは、ちょうど新発田祭りにあたる時期であることを利用して、ゼミ生が台輪のいわれ、祭りの歴史やしきたりについて、町の古老



たちから聞いてきたことを、民俗学の手順に従って報告し、討議していました。これ以外に浅野幸穂先生、佐藤渉先生、大海宏先生、アラン・ブロンデ先生の体験模擬授業も行われました。

十五時五十分には栄光館前広場に集合して一同記念撮影を行い、佐々木駅行の大学のバスが高校生をのせて十六時すぎに出発するのを、教職員と学生が見送りました。なお七月二十四日の参加者は三十八人、八月二十八日は四十二人、九月二十五日は三十四人でした。複数回参加した熱心な高校生も何人かいたことを付け加えておきます。

なお、二〇〇〇年度の募集人員と、入試日程は次のとおりです。

2000年度入学試験概要

○募集人員

学部・学科		入 試 区 分						合 計	
		指定校 推薦	一般 推薦	自己 推薦	A日程： 2科目型	B日程： 1科目型	C日程： 課題面接型		センター 利用入試
人文学部	英語英米文学科	20名	20名	10名	20名	15名	5名	10名	100名
	国際文化学科	20名	20名	10名	20名	15名	5名	10名	100名
合 計		40名	40名	20名	40名	30名	10名	20名	200名

○入試日程

入試区分		出願期間	試験日	合格発表	入学手続締切	試験会場	試験科目・配点	入学検定料
推 薦	指定校推薦 (専願制)	11月1日(月) ～11月12日(金)	11月21日(日)	12月2日(木)	12月16日(木)	本学	面接50点、調査書100点、 特別活動等20点(上限)	33,000円
	一般推薦 (専願制)	11月1日(月) ～11月12日(金)	11月21日(日)	12月2日(木)	12月16日(木)	本学	小論文100点、面接50点、 調査書100点、 特別活動等20点(上限)	33,000円
	自己推薦 (専願制)	11月1日(月) ～11月12日(金)	11月21日(日)	12月2日(木)	12月16日(木)	本学	小論文100点、面接50点、 調査書100点、 特別活動等20点(上限)	33,000円
一 般	A日程:2科目型	1月7日(金) ～1月21日(金)	1月31日(月)	2月9日(水)	2月29日(火)	本学、新潟 長岡、東京	英語(リスニング含む)100点、 国語100点、調査書100点	33,000円
	B日程:1科目型	1月7日(金) ～1月21日(金)	2月1日(火)	2月9日(水)	2月29日(火)	新 潟	英語(リスニング含まず)、 国語より1科目200点、 調査書100点	33,000円
	C日程:課題面接型	2月18日(金) ～3月6日(月)	3月11日(土)	3月17日(金)	3月24日(金)	本学	面接100点、調査書100点	33,000円
	センター入試	1月7日(金) ～1月21日(金)	1月15日(土)、 1月16日(日)	2月9日(水)	2月29日(火)		英語200点、国語、地歴、公民 の11科目より1科目200点、 調査書100点	18,000円
編入学(第1次募集)		10月4日(月) ～10月15日(金)	10月23日(土)	11月2日(火)	11月19日(金)	本学	小論文、面接	33,000円
帰国子女		10月4日(月) ～10月15日(金)	10月23日(土)	11月2日(火)	11月19日(金)	本学	小論文、面接	33,000円
社会人		10月4日(月) ～10月15日(金)	10月23日(土)	11月2日(火)	11月19日(金)	本学	小論文、面接	33,000円
外国人留学生		12月1日(水) ～12月24日(金)	1月22日(土)	1月28日(金)	2月14日(月)	本学	小論文、面接、 日本語能力試験1級または 2級	33,000円
編入学(第2次募集)		2月4日(金) ～2月14日(月)	2月22日(火)	3月3日(金)	3月17日(金)	本学	小論文、面接	33,000円

「佐々木駅の生い立ち」

地域の歴史を尋ねて

国際文化学科教授

片桐 邦郎

この写真は、誰もが知っている白新線の「佐々木駅」である。敬和学園大学のスクールバスは、大学とこの佐々木駅の間を往復している。敬和学園大学の何割の学生が、この駅で乗り降りをしているのだろうか？

私も車で通う以外は、新潟駅から佐々木駅まで白新線を利用して行く。敬和学園大学に赴任して以来、この駅も待合室も、列車が来るまで待った（懐かしさも感ずる）ところである。この春、新学期が始まって佐々木駅で、列車の来るのを学生と一緒に待っていた時のことである。

「この駅はいつごろできたか知っている？」とその学生に尋ねてみた。当然、答えは「いいえ」であった。建物とは、どんな建築でも建てた年代が分かれば、歴史がわかって面白いものである。

それから一週間して、その学生が「駅員さんに質問したら、『新潟鉄道管理局五十年史』を貸してくれました」と、その本を持ってきた。昭和二十七年十二月二十三日に駅はできたようだ。そこで、『新潟日報』を調べるように言った。また一週間して、新聞のコピーを持って来た。

近くの小学校や中学校の生徒の喜びの声載っている。鉄道が開通する嬉しさが滲み出ているような記事であった。

昨年出版された「新潟県の歴史シリーズ」の『新発田・村上の歴史』にも白新線の開通のことは出ていない。地元の歴史のことは見過ごすことなく調べてみると新しい親しみが湧くものである。

秋には、新聞に出た生徒（いまはもう四、五十代になっているだろう）を探して当時の話を聴いてみようと思っている。

（西新発田駅、黒山駅、早通駅、大形駅は、昭和三十一年にできた。）



今年も新潟市関屋地区 公民館と連携講座

昨年に引続き関屋地区公民館の要望で「世界探訪講座・ヨーロッパを知る」が開かれ、講師を主に本学教員が担当しました。参加者の皆さんから「旅行ガイドには載っていない興味深いお話で、是非その国に行ってみたくなりました」と好評でした。

月日	内容	講師
6/2	ことばを通して感じた スペイン・イタリア	イタリア語講師 戸田 雪宏
6/9	私のルーヴァン体験	敬和学園大学教授 延原 時行
6/16	バグパイプとキルトの国 ～スコットランド～	敬和学園大学長 北垣 宗治
6/23	オランダ ～偉大なる小国～	敬和学園大学教授 大海 宏
6/30	ドイツ語とドイツ人	敬和学園大学助教授 岩倉 依子
7/7	フランスの12ヵ月	敬和学園大学非常勤講師 湊元 マルチーフ

敬和祭のご案内

テーマ

999

— 未来へ走るトップアスリート —

日時

11月6日(土)・7日(日)

おいしい屋台や楽しい企画が盛りだくさん。
皆様の御来場、心よりお待ちしております。

敬和祭実行委員会
代表 藤原康晴

寄付者ご芳名

- 一般 小川文勝 中条聖心幼稚園
 - 一九九一組 倉島紀彦
 - 一九九二組 岩渕布紀子 下川 幹
 - 一九九三組 丸山仁史 奈良橋健太郎
 - 霍間慶子
 - 一九九四組 阿部浩幸
 - 一九九五組 桑原裕美 山本 勝
- (九月二十二日現在)

学事予告

- ◆十月◆
 - 二十二日 第六回公開講座(新発田)
(佐藤涉助教授)
 - 二十三日 帰国子女・社会人・編入学
(二次)入試
 - 二十九日 第七回公開講座(新発田)
(岩倉依子助教授)
- ◆十一月◆
 - 五日 第八回公開講座(新発田)
(松崎洋子教授)
 - 六日 敬和祭(～七日まで)
 - 十二日 学生リトリート(～十三日まで)
 - 十九日 企業との就職懇談会
 - 二十一日 推薦入試
- ◆十二月◆
 - 十七日 クリスマス行事
 - 十八日 大学・高等学校
合同クリスマス研修会
 - 二十四日 冬期休暇(～一月七日まで)
- ◆一月◆
 - 八日 国際文化学科卒論締切
講義再開
 - 十一日 英語英米文学科卒論締切

キャンパス日誌

7月

- 2日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑫
 説教 永野茂洋 教授「日毎の糧」
 福祉体験学習事前指導
 阿部明子女史(国際医療福祉力レッジ講師)
 市井栄吉氏(知的障害者通所授産施設
 青松ワークス施設長)
 近藤和義氏(特別養護老人ホーム
 槇山けやき苑施設長)

6日 敬和学園大学後援会・就職委員会合同会議

7日 教授会・人事教授会

9日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑬
 説教 北垣宗治 学長「反逆について」

24日 第1回オープンキャンパス



夏期短期留学 サンバナディーノ校出発
 (~8月29日)

夏期短期留学 アングロ・コンチネンタル出発
 (~8月30日)

26日 夏期休暇開始

27日 キャンパスクリーンアップ

8月

1日 事務職員人事異動 辞令交付

7日 夏期短期留学 ワシントン外国語アカデミー出発
 (~9月12日)

28日 第2回オープンキャンパス

31日 学校法人敬和学園中・長期計画検討委員会

9月

17日 新発田市公開講座①
 講師 北垣宗治 学長
 「二つの世紀末 — 英文学の場合」



20日 福祉体験学習週間 (~24日)



24日 ふれあいバラエティ
 新発田市公開講座②
 講師 大海 宏 教授
 「19世紀のポンド、20世紀のドル、
 21世紀のユーロ」

25日 後期講義開始

28日 理事会

29日 教授会

30日 学校法人敬和学園中・長期計画検討委員会

10月

1日 新発田市公開講座③
 講師 西村秀雄 助教授
 「『100年後の決算』明治期日本の近代化
 — 科学史の立場から」

8日 新発田市公開講座④
 講師 若月忠信 客員教授
 「日本文学にみられる二つの世紀末」

9日 保護者懇談会 (ホテルイタリア軒)